



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：地域の誇り・まちづくり日新広報部
福井市文京5丁目1-8日新公民館
発行日：平成27年(2015年)12月20日

日新
苟日新 苟に日に新たに
日日新 日々新たに
又日新 又日に新たなり
出典 「大学」

ゆめ にっしん

第36回公民館まつり 賑わう 会場の台所 婦人会とそば同好会が奮闘!



大勢の人たちで賑わいました

第36回公民館まつりが開催され、10月17日の前日祭、翌18日の当日祭とも晴天に恵まれ大勢の人で賑わいました。

当日祭には、1,200人余りの人たちが訪れ、舞台発表や展示会、お茶席などを楽しみました。また、屋外会場では、防災展や福祉関係のテント、また野菜や焼き鳥などの販売ブースが並び、福井大学生とのダンスのコラボなど、多彩な催しが行なわれました。

一方、前日祭では、福井大学特別支援学校の生徒さんによる演技披露とウォーキング大会を開催。まず、支援学校生徒40余人の力溢れる演技に始まり、その後のウォーキング大会には、生徒さんの熱演に触発されたかのように250人近い多くの老若男女が参加。底喰川沿いに育つ草木の名前を聞きながら、また時には、大きな鯉に歓声を上げながら30分余り掛けて歩きました。

この両日の公民館まつりの台所を預かったのが、そば同好会と婦人会でした。前日祭のウォーキング大会のあとのおろしそばを作ったのがそば同好会の皆さん。当日の朝早くから17kg分のそば粉を約16人がかりでそばにしたもの。おろしを用意するにも、提供する量が大量なだけにこれまた大変な労力でした。



丹精込めてそば打ち



金曜日に準備開始

そば同好会以上の奮闘を見せたのが婦人会。前日の準備作業者用のおにぎりや味噌汁にはじまり、当日祭での炊き込みご飯やおでん、豚汁、寿司など数種類の料理を作りました。前々日から、のべ58人が従事し、肉や野菜の量は約150kgにおよび、炊き上げたご飯はなんと40升にのびりました。

こうしたまつりには、来場者の多くは、各団体やグループの活動内容を見学するために訪れるものですが、食べ物の充実もまた会場が盛り上がる大きな要素の一つとなったようです。

さんさんバス情報

年末年始の運行のご案内

年内は、12月29日(火)まで運行。
新年は、1月4日(月)から運行となります。お気を付け下さい。

来年も「さんさんバス」をご愛顧頂きますようお願いいたします。

抽選会場を、明林繊維駐車場に移設させていただきますこと、日新地区社会福祉協議会は最大の感謝の意を評したいと思います。また、駐車場を開放していただいている明林繊維さんにも、紙面を借りてお礼を申し上げます。

例年この明林繊維会場には来場者が少なかったのですが、今年は急変しました。それは、抽選会場が明林繊維会場に移設されたことで来場者が非常に増えて、防災会と共同で実施したスタンプラリーの景品がすべてなくなる嬉しい結果となりました。来年はIA.gateにもスタンプラリーに参入してもらいさらに充実させたいと思っています。



小学生も興味津々

日新地区社会福祉協議会 来場者急増! 明林繊維駐車場会場

今年の福祉まつりも公民館まつりと同時開催となりました。会場も例年通り底喰川をはさんで公民館横の道路と明林繊維さんの駐車場の2会場で、明林繊維会場では、防災会とIA.gateと並び開催しました。

「住吉台くるくるバス」の視察研修を終えて

地域の誇り・まちづくり日新 実行委員会
事務局長 阪井 一彦

今年度の「まちづくり日新」の館外研修は、神戸市東灘区の「住吉台くるくるバス」の視察でした。

「くるくるバス」の凄い点は、一日の平均乗客数が約900人ということで、この数字は、「日新さんさんバス」の一ヶ月の乗車人数を超えています。住吉台の人口は3,500人、世帯数は1,700で、日新地区より少ないにもかかわらずです。

「くるくるバス」の走る地区の環境は、日新地区とはかなり違っていています。住吉台は神戸の六甲山の麓の高台にある高層ビル団地で、JR住吉駅の市街地とは40メートルもの高低差があり、高齢者が徒歩で通うには大変苦勞されます。また、2015年の住吉台の高齢化率は44%で、2005年にバスが開通した時は23%でしたので、ここ10年で急速に高齢化が進んだことになります。



曲がりくねった坂道の連続



高層ビル団地の中を走るバス

高低差40メートルの地形的な点と急速に進む高齢化が、「くるくるバス」を生活必需品と成し、この事が大きな住民力となってバスを走らせ、大勢の方が利用しているのだと思います。

都会の団地とは違い日新地区における高齢化はこれほど急激には進まないと考えますが、迫りくる高齢化には備えなければなりません。

高齢者が暮らしにくい町は誰にとっても暮らしにくいものです。クルマに頼り過ぎない、安心して移動できる、人々が出会えるコミュニケーションある町をつくるために、日新地区の公共交通「日新さんさんバス」が大いに役立っていくものと期待しています。

交通部会

“本格運行”感謝！感謝！感謝！

交通部会
部会長 山口 満

日新地区コミュニティバス「さんさんバス」の本格運行につきましては、すでにご承知のとおり、本年10月から3年間の事業承認を行政より得ました。

運行開始当初は、乗客数200人弱と非常に悪い業績でした。その後も、数多くの難問をかかえながらの運行でした。しかし、その都度、皆さんの温かい支援や強い協力などをいただき、難関を乗り切ることができました。本当にありがとうございました。

特に成功のPointとしては

1. さんさん会員の日帰り温泉旅行や昼食会などへの積極的参加による成果。
2. 自治会連合の皆さんとまちづくり役員で構成するサポーター制度の強力展開。
3. バスに関する情報を地域に周知徹底させる広報活動。
4. 一般客の着実な実績増大。
5. 花園幼稚園、ひまわり児童館、日新小、藤島中などにいわゆるスポット的利用の呼び掛け。

の5つが考えられます。これで乗客の確保をしてきました。

しかし、今後は、楽観は許されません。バスの運行経費等から月平均750人の乗客を確保しなければならないのです。この乗客数を確保するために、一部事業内容を改正し、平成28年度をスタートさせ



日新のまちづくりには不可欠

たいと思っています。具体的には…

1. 山内整形外科を廻るバスルートおよびバス停を新設し、利便性を高める。
 2. 福大前西福井駅ルートの見直しをし、運行時間を短縮する。
 3. 運行時間を変更し、乗客のバス活用が十分できるようにする。
- の3つですが、利用する乗客の皆さんの想いを取り入れていきたいと思っています。



出発する本格運行第一便

高齢化社会を迎える私たちのまちが、お年寄りにやさしく、安心して暮らせるまちになるよう精一杯の後押しをしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



大根栽培に挑戦！



『日新かるた』にまつわる『見て歩きMAP』や『解説看板』などを製作してきた「いきいきライフセミナー」は、今年度は大根づくりに挑戦しました。

参加者は、公募を含め23人。畑は、八ツ島地区の一角にあり、広さは15㎡の元々畑。

まず8月26日に畑づくり。しかし、ほとんどの人が未経験で、思うように鍬や鋤が使えず、悪戦苦闘。その後、種の蒔き方や草取りや間引きの方法を順次教わりながら栽培作業を続けました。12月2日に収穫し、27年度の活動を終了。約400本の大根を収穫し、豊作に笑顔を綻ばせていました。

マイナンバー制度講座 開かる

11月17日、日新公民館で福井商業高校生の課題研究授業講座が開かれ、地区の住民20人が受講した。

この講座は、研究した課題を発表する授業の一つで、今回はマイナンバー制度について発表。



難しい質問にも即回答

制度の意義やメリット、デメリットについて解説。メリットは、各種申請書類の簡略化や年金などの確実な給付など。一方、デメリットは新たな詐欺の発生を指摘し、その対策としてむやみに他人にナンバーを教えない事などを挙げた。

さらに、マイナンバーは住民票をもとに発行され、一生変わらないことや有効期限は無いなどの説明もあった。

また、申請すれば交付される個人番号カードには、顔写真が貼付され、身分証明証として終生使えるが、20歳未満の人たちの場合は、5年ごとに変える必要があることについても説明し、講座を終了した。

この期間、自転車の利用は控えましょう。

また、積雪の時期です。安全を保つためには、両手でハンドルを握り、前方の安全を確認して運転すべきなのです。片方の手に傘やスマホを持っていては、安全を保つことは不可能です。



「安全運転義務違反」とは、自転車を運転するには、安全を保てるよう運転をしなければなりません。これが、これを怠ることです。

「酒酔い運転禁止」

「酒酔い運転」とは、説明するまでもなく、お酒を飲んで自転車に乗ることです。これは絶対にしてはいけません。お酒を飲む機会が特に多くなる年末年始。「チョットなら...」でも絶対止めましょう。

自転車の安全運転のために

「酒酔い運転」とは、説明するまでもなく、お酒を飲んで自転車に乗ることです。これは絶対にしてはいけません。お酒を飲む機会が特に多くなる年末年始。「チョットなら...」でも絶対止めましょう。



「安全運転義務違反」



文化部

文化部 部長 山崎 豊

秋の七草観賞とお月見だんごづくり

今年は9月5日(土)に開かれましたが、「流しソーメン」のイベントと重なったため、午後2時に開始。参加した子供たちは70人ほどになりました。時間を遅らせた関係で、団子作りは文化部会のスタッフが受け持ち、子供たちの団子作りはありませんでした。ですが、このイベントでは、団子作りは欠かすことのできないものだと痛感しています。



熱心に聞いていました

子どもたちは、児童クラブの藤井館長の司会でパーティを楽しみ、その後、さんさんバスで帰って行きました。

ウォーキング大会と俳句

10月17日には公民館まつりの前日祭・底喰川ウォーキング大会が開催されました。大会の前に、



今年も大勢が参加

3年ほど前から続いている福井大学支援学校の生徒によるパフォーマンスが披露され、その後スタート。底喰川周辺を約30分掛けて歩きました。190人を優に超える参加があり、振舞われたおろし蕎麦もきれいになくなるほどでした。また、「ウォークで5・7・5」と銘打って俳句を募集したところ、100件を超す応募があり反響の大きさに驚きました。この中から50句を当日祭にパネル展示。これもまた好評でした。

2地区で秋祭り

堀ノ宮と八ツ島の両地区で秋祭りが開催されました。

堀ノ宮白山神社では、10月3日(土)の前夜祭に民踊大会が行なわれ、地区内外から100人近い民踊愛好家が集い、午後9時まで境内を埋め尽くしました。



わっしょい!

わっしょい!

翌4日の本祭りでは、秋とは思えない陽射の中、神輿巡行。約3時間掛けて町内を練り歩いたあと、境内で、昼食を取りながらアトラクションを楽しみ午後4時頃散会しました。



心地よい夜でした



手作りキットがあるそうです

翌週の10月11日(日)には、八ツ島白山神社で秋祭りが開催され、ここもまた多くの人出で賑わいました。

境内では、神輿巡行と相前後して餅つきを開始し、神輿の帰座時には、6臼分のおろし餅やあべ川餅を振舞い、大好評でした。また、町内の人達が運営する露店では、若いお母さんたちがヨーヨーを作る光景も見られ、餅つきとともに、『懐かしき日本』を演出。午後は雨となったものの、カラオケ大会などで存分に秋祭りを楽しみました。



ピタリ息が合っていました

関節リウマチとはどんな病気？

～早期発見、早期治療で「寛解」を目指します～

協力：奥村整形外科クリニック

寛解とは、症状が消失している状態のこと。



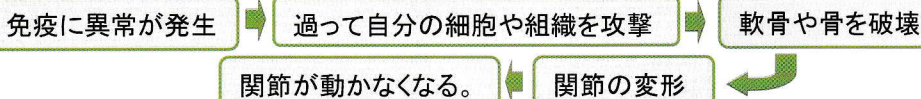
関節リウマチとは…

関節が変形して動かなくなってしまう病気です。

現在日本に70万人以上の患者さんがいると言われています。

発症のピークは30～50歳代で、女性は男性の4倍ぐらい多く発症します。

その原因は…



その症状は…

特徴1：初期は**関節の腫れと痛み**で、手指の第2あるいは第3関節や手首など小さい関節に**左右対称に起りやすい**。腫れは**柔らかい**。(下の※印を参照下さい)

特徴2：**朝のこわばり**がある。

※加齢による変形性関節症の腫れは硬い。

症状が進行すると、関節軟骨や骨が破壊され関節の脱臼や変形

介護が必要となる場合がある。

その診断は…

問診、診察、血液検査などに基づいて専門医が行ないます。

その治療は…

★抗リウマチ薬を中心とした内服療法 ★生物学的製剤による注射治療(最近の開発)
★手術療法など 症状の進行状況に応じた治療が行なわれます。

関節リウマチは、治療法の大きな進歩により、早期から適切な治療を行なうことで寛解(症状が消失している状態)を達成し維持することが出来ます。両手指の関節の腫れが、6週間以上続く場合には、専門医の受診をお勧めします。

藤中生徒ボランティア活動

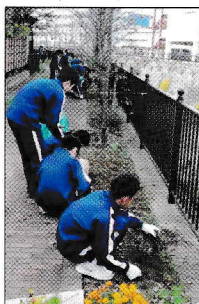
底喰川原や周辺を清掃

11月11日、藤島中学校の生徒さん120人が底喰川の清掃を行いました。

これは、藤島中学校生徒会の地域貢献活動の一つとして行なわれたもので、この日は、午後2時から約1時間半掛けて底喰川の河原約1kmを清掃。漂流したゴミの収集や草刈りなどに取り組みました。



漂流物を収集



徐々に慣れて…

日新公民館では、毎月、環境部会を中心に底喰川の清掃活動を行なっていますが、生徒さんたちと比べ狭い範囲にもかかわらず、時間内に思ったほどの成果を上げられないのが現状。一緒に清掃した環境部会の一人は、「ありがたいの一言に尽きます。」と綺麗になった川原を見ながら感謝していました。また、清掃したあとの花壇に、一緒にチューリップの球根と葉ボタンを植えた別の一人は、「きれいな花が咲くようになったら是非見に来てもらいたいですね。」と、早くも春に思いを馳せていました。



丹念に植えました

わがまち自治会 宮島ハツ島第2自治会

自治会会長 立壁 和典

ハツ島地区では昭和43～45年位に区画整理事業が行なわれ、昭和55～58年ごろより付近に住宅地が広がる。白山神社では1月のどんど焼きに始まり、年中行事が行なわれる。

白山神社の祭礼などは当初神主を招き神事だけが行なわれてきたが、住宅が広がり始めると子ども会が盛んになり、約36～38年位前に若い世代5～6人が村祭りを行なうべく、村内の長老と掛け合い、紆余曲折の末祭りを起こした。数年後、長老氏子により富山刑務所に製作を依頼しお神輿が完成。その後、どんど焼きの行事をすることになり、試行錯誤の末、村の匠の智慧のもと現在は他の地区に劣らない仕立てになっている。

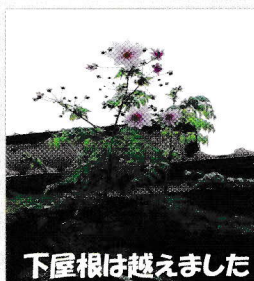
どの自治会にも特技を持つ人や匠が居るものである。この自治会も然り。その中で特筆すべきは、通称「定信」さん。農業は勿論、園芸など



多くのつぼみが…

卓越した知識と技術は定評がある。

街づくり交流会を名古屋で開催の折交流の記念として頂いた「皇帝ダリア」が公民館前に大きく成長し、彼の努力の成果である。大きくつぼみを付けており、大きく美しい開花の感動を皆様に…。



下屋根は越えました